

## 事例発表 I

# 高齢者の相互支援活動と行政サービスの融合

築上町老人クラブ連合会  
副会長 山田 久

紺碧の西の空へ航空自衛隊築城基地のジェット戦闘機が、轟音とともに訓練飛行へと飛び立っていく。

「空の守りは頼んだよ」と、そしてふと我に戻りますと、後期高齢者を過ぎ 78 歳という老人生活。

そのような中での築上老連 25 支部（女性会員 655 名、男性会員 449 名、計 1,104 名が活動している）と元気な姿が在ります。

築上老連は、昨年度統合（椎田町、築上町）2 年目を頑張っているところです。

### (1) 私の老人会及び自治会

私が定年退職した平成 26 年、町役場企画より自治会長の依頼があり、やっと定年退職したのでゆっくりするかと思っていた矢先のことで、自治会なんて私にはできないとお断りしました。

しかし、何回も依頼があったみたいで、役場職員がやって来て仕方なく受けてしまったのです。妻も「もう一度、町の発展の為に頑張ってみたら」と言います。

そして、平成 26 年 6 月から自治会の仕事を受けたのが始まりで、同年 7 月に老人会がない地区の為に老人会を立ち上げ、30 名、30 世帯からの始まりでした。

しかしながら、時は流れ早 10 年の歳月がたち、現在の南別府老人クラブは会員数が 19 名（転居 7 名、施設入所 1 名、死去 2 名）へと減りました。

今後の対策は、少人数での近隣老人会への加入です。

(2) 一線(個人情報)を越えなければならない支援活動

私の地域は、築上町の管理集合住宅(築上町都市政策課)です。そして、支援活動の大変さ、難しさがあります。

例えば、見守り活動の中での一人暮らし家庭が多く、事案が発生すれば、連絡先すらわからない一人暮らし家庭、そんな中一線(個人情報)を越え家族構成や、緊急連絡先を調査しなければならない難しい大変さがありました。

やっとの思いで、個人情報たる難関を越えて、一冊の台帳ができました。

(3) 地域の役割を担う今後の老人会の在り方

(4) 高齢者在宅福祉サービスについて